

シンポジウム：細胞アッセイ技術の現状と将来

2022年 1月 25日(火)

Online by Microsoft Teams

主催：細胞アッセイ研究会

共催：公益社団法人化学工学会バイオ部会

国立研究開発法人産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門

協賛：一般財団法人バイオインダストリー協会(予定)

一般社団法人化学とマイクロ・ナノシステム学会(予定)

NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議(予定)

日本動物実験代替法学会

特定非営利活動法人エイチ・エー・ビー研究機構(予定)

公益社団法人日本生物工学会次世代アニマルセルインダストリー研究部会(予定)

一般社団法人日本薬物動態学会(予定)

特定非営利活動法人情報計算化学生物学会

薬物動態談話会(予定)

細胞アッセイ研究会のメインイベントでありますシンポジウムですが、ここ数年は 250 名程度の皆様にご参加頂き、基調講演での質疑応答に加え、ポスター形式の一般研究発表のディスカッションも非常に活発に行われてきました。昨年度は新型コロナウイルス蔓延のため、全てのプログラムをオンライン形式で開催させて頂きましたが、懸念されたポスター発表についても十分な議論ができたとのことご意見を頂戴しました。

今後の新型コロナウイルスの感染状況は不透明ではありますが、感染予防をしつつ、ポスター発表での活発な議論は困難であると思慮されるため、今年も全てのプログラムをオンライン形式で開催させて頂くことといたしました。シンポジウムは勿論のこと、忌憚無い意見交換ができた懇親会を、リアルで開催できる日が早く訪れることを願ってやみません。

さて、基調講演のテーマですが、今年もまた MPS (Microphysiological System)を中心に据えたいと思います。日本医療研究開発機構による MPS の社会実装を目指す事業は今年度末で終了しますが、そのお陰もあって、我が国においても MPS について相応に衆知されたと思われまます。

そこで第 1 部では、MPS とは何か?、について参加者の皆様と議論を深めたいと思います。ご承知の通り、米国食品医薬品局では”Advancing Alternative Methods at FDA” (Jan., 2021) の中で MPS を明確に位置付けています。我が国においても、同様な議論は必須であると考えております。

第 2 部では、MPS で得られるデータの取り扱いに関する基調講演をお願いしています。一つは、標準化や規制対応、あるいは薬事申請への適用を視野に入れた議論、もう一つは数理シミュレーションの高度化に MPS が利活用できないか、という視点です。

沢山の皆様の研究発表のお申し込み、ご参加をお待ち申し上げます。

組織委員

安西 尚彦(千葉大学医学部)

石田 誠一(崇城大学生物生命学部)

加藤 将夫(金沢大学医薬保健研究域)

柿木 基治(エーザイ)

金森 敏幸(産業技術総合研究所)
清川 順平(中外製薬)
小島 肇 (国立医薬品食品衛生研究所)
斎藤 幸一(住友化学)
酒井 康行(東京大学大学院工学系研究科)
薩川 正広(科研製薬)
杉浦 慎治(産業技術総合研究所)
田端 健司(アステラス製薬)
平林 英樹(武田薬品工業)
山田 泰弘(日本薬科大学)
山下 伸二(摂南大学薬学部)
渡邊 健悟(第一三共)

プログラム(全て Microsoft Teams によるオンラインでの開催となります)

9:50 準備・諸連絡

10:00 MPS とは? ~ あらためて定義を考える ~

1) 話題提供 1:Context of Use から

石田 誠一 (崇城大学生物生命学部)

2) 話題提供 2:Regulatory Science から

奈良岡 準 (幹細胞評価基盤技術研究組合)

3) パネルディスカッション(モデレーター:石田 誠一)

奈良岡 準 (幹細胞評価基盤技術研究組合)

手塚 和宏 (アステラス製薬薬物動態研究所)

前田 和哉 (北里大学薬学部)

酒井 康行 (東京大学大学院工学系研究科)

11:30 MPS により集積されたデータを活用したアッセイ法開発とその標準化

伊藤 弓弦 (筑波大学生命環境系)

~ 休憩 ~

13:30 MPS による Quantitative Systems Pharmacology の高度化への期待(仮題)

楠原 洋之 (東京大学大学院薬学系研究科)

14:30 MPS と数理モデルを用いた生体ネットワークの理解に向けて

杉本 昌弘 (東京医科大学医学総合研究所)

15:30 ポスター発表

17:30 閉会

一般演題募集

例年通り、ポスター形式で募集いたします(発表、議論はオンラインで実施します)。ホームページ(<https://cell-based-assay.jp/>)で受付いたします。発表申し込みの締め切りは12月5日(日)を予定しています(発表枠に制限がありますので、予定数に達しましたら募集を締め切ります)。要旨(A4で1枚、カメラレ

デイ)の提出締め切りも同じです。

参加申し込み

ホームページ(<https://cell-based-assay.jp/>)による事前登録のみとなります。申し込みをして頂いた方には、要旨集および領収書を郵送すると共に、オンラインのアクセス方法をご連絡いたします。参加の締め切りは、12月26日(日)です(オンラインのアカウント数に限りがありますのでご注意ください)。

参加費 3,000 円

要旨集広告・協賛金・オンライン製品紹介申し込み

ホームページ(<https://cell-based-assay.jp/>)に趣意書および申し込みを掲載してありますので、ダウンロードしてご覧下さい。

問い合わせ先

国立研究開発法人産業技術総合研究所
細胞分子工学研究部門
金森 敏幸
e-mail: t.kanamori@aist.go.jp